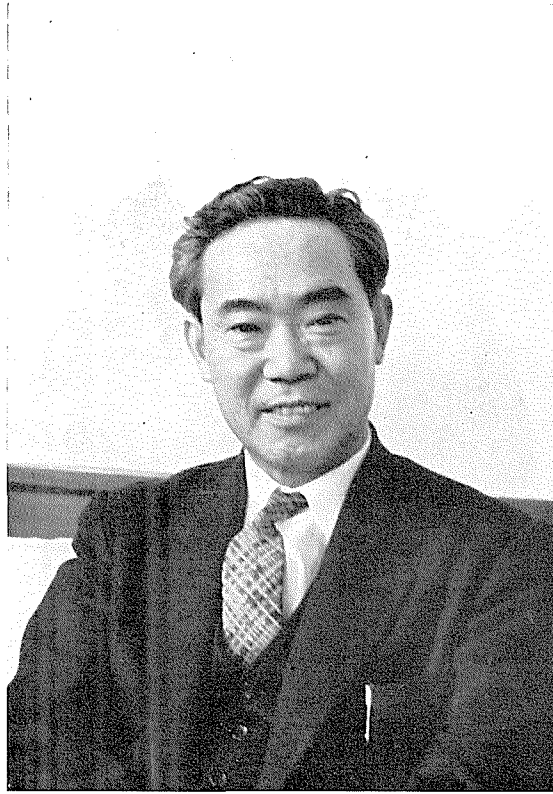




Title	中谷宇吉郎教授の死をいたむ
Author(s)	吉田, 順五
Description	中谷宇吉郎の肖像有
Citation	低温科学. 物理篇, 21
Issue Date	1963-03-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/18004
Type	other
File Information	021.pdf





故 中谷 宇吉郎 教授

明治 33 年 — 昭和 37 年

1900 — 1962

中谷宇吉郎教授の死をいたむ

昭和37年4月11日中谷宇吉郎先生は62年の生涯をとじられた。その創設を先生の力にまち、陰に陽に先生の指導をうけつつ今日の姿にまで発展した低温科学研究所の所員一同は、先生の訃報に接して深い悲しみに沈んだ。

低温科学研究所設置の官制がしかれたのは今から21年まえの昭和16年末であったが、1年半のちの昭和18年秋には、すでに、研究所の建物も完成し本格的な研究がはじまった。戦争はしだいに激しさを加え、創設資金の面、建設資材の面での困難は日をおって増大しつつある時期であった。そのなかにあつて、少しのひるみもなく各方面との交渉にあたられ、1年半の短時日のあいだに低温実験室という特殊な設備を含む研究所の建設を押し進められた先生の意志の強さは、周囲の者に非常な勇気をあたえた。出発にあつてのこの勢いが研究所その後の発展に大きな力となった事実は忘れてならないことである。

先生の雪氷学における功績は、あまりにもよく知られたことで、あらためて記すまでもない。しかし、先生御自身は物理学者として雪氷学にたずさわるとしても先生の当研究所についての構想は、雪氷学を部分として含む広い低温科学の育成にあつた。物理学、生物学、医学の研究部門を擁して発足し、今日他に例を見ないほどの総合的研究所に当研究所が育ったことがそれを物語っている。科学のもつ力のひとつとして、現実に可能なことと不可能なことを区別することがあげられよう。優れた科学者であつた先生は、一見可能なことを不可能として斥けられ、一見不可能なことを可能として取あげられることがしばしばであつた。当研究所が先生のこの偉大な識見にもとづいて発足発展したことを回想しつつ、哀惜の念にたえないものがある。

昭和37年12月

吉 田 順 五